

ちょっとした はなし

絵札のない

防災を **いろは**かるた で

- 【い】 インフラ施設障害に備える、お手上げにならないために
- 【ろ】 ローリングストックを続けるためには楽しくなければならぬ
- 【は】 ハザードマップに重ねることで地域をよく知ることになる
- 【に】 逃げ遅れはなぜ起きる？ 避難は安全第一が最優先
- 【ほ】 崩壊土地は地名にあり、先人が残してくれた遺産
- 【へ】 変は変災、天変地異 相手を怒らせずにかわすには
- 【と】 都市は災害に対して脆弱になっています
- 【ち】 地域防災への関心は自助の向上にもつながる
- 【り】 リードタイムを知っていると…
- 【め】 盗人に隙はあれども守り手は隙がない、だから備える
- 【る】 類推なのか確率なのか、決め手はなに？
- 【お】 おんぶにだっこではだめ、自主防災で情報共有を
- 【わ】 わが身のことと思え、対岸の火事はいずれは…
- 【か】 活断層、活火山の活には不安、気がかりが…
- 【よ】 予(あらかじめ)は難しくても、推測はできるかもしれない
- 【た】 大事の前に小事あり、前ぶれに敏感になる
- 【れ】 歴史は繰り返す、思わぬところにその足跡を見つける
- 【そ】 素因がなければ、ことは起きない 卵に毛あり
- 【つ】 続けることのむずかしさ 風化させてはいけぬ経験
- 【ね】 ネズミが塩を引く、関心を持続させることこそ防災力
- 【な】 なくしたい想定外、次の行動をするためにも
- 【ら】 ライスタイム いまスロー地震が注目されている
- 【む】 “虫の目情報”は災害発生時には重要な行動指針になる
- 【う】 牛を馬に乗り換えてもうまくいかない、都合の良いことは後でお返しされる
- 【あ】 一葉落ちて天下の秋を知る、何気ないことに気づくことこそが大事
- 【の】 ノレッジ(知識、情報、学識)だけではだめ、実践力を養うには、けいこが必要

- 【お】** 大雨警報、その時にうまく対応できないと避難のタイミングを失する
- 【く】** 熊沢蕃山の教えがいま注目されています、日本の国土の7割が森林です
- 【や】** 柳の下にいつもどじょうはいない 次へ向けて経験を活かす
- 【ま】** 末端は、なんでも、どこでもつらくて厳しい
- 【け】** 建築物の危険度判定で二次災害を防ぐ
- 【ふ】** 噴火による被害は多様、火山が遠くても広範囲に影響が及ぶ
- 【こ】** 五感を活かすためにも、災害への関心を継続して経験をつなぎたい
- 【え】** 越水がもたらす想像を超える水の勢い
- 【て】** 天災は忘れぬうちにやってくるけど、風化もされやすい
- 【あ】** アウトリーチ活動は、災害への関心が高まり、防災へ貢献
- 【さ】** 災害対応で耳にする3連ことば 知って得することばかり
- 【き】** 急傾斜地は自然と人工の両方があり、不安定の方向に変化している？
- 【ゆ】** 揺れやすさマップをみて、読む
- 【め】** 目を向けることで、目を配ることになる
- 【み】** 水はどこから、内水氾濫の怖さは辻斬り並み
- 【し】** 自然災害は気候変動に関係し、気候変動は健康にも影響する
- 【あ】** 営力は休むことを知らない働き者
- 【ひ】** 避難に極意はありますか、安全空間をどう確保するか
- 【も】** もしも、まさかが現実になんて近くなっている、地球温暖化が足早になっている
- 【せ】** 線状降水帯が発生すると、被害は拡大し驚くような被害がでています
- 【す】** スーパー都市災害ってなに
- 【京】** 桂馬の高上り、考えなしに飛び出すと窮することになる

【い】 インフラ施設障害に備える、お手上げにならないために

都市部では、資産や施設が集中していることもあって、集中豪雨や地震では大きな損傷を受けます。いまや、エネルギー、物流、運輸、衛生、通信などのインフラ施設に全面依存しているために、代替がなく広域にわたって長期間の機能喪失が発生します。

そのためにも、微々たることではありますが個人が平時から習慣にしておくといよいものとして、風呂水を溜めておく、蓄電、ガスボンベや飲料水の確保などを継続して実施することが大切なこととなります。いわば、自衛というか臨戦態勢をとることを忘れないことです。

【ろ】 ローリングストックを続けるためには楽しくなければならぬ

災害時の備えとして、様々な防災グッズが販売されていますが、特に食品や飲料水は消費期限等もありますので、それを勘案し上手に備蓄を継続していくことが大事なことです。これを更新していくためには、楽しくないと続かないので、まずは自分の好みに合ったものをそろえるようにすることです。いまは、昔の非常食の乾パンではなくおいしいものが多種販売されています。災害発生時をイメージしながらも様々なものにチャレンジするような買い物気分もよいものです。

【は】 ハザードマップを重ねることで地域をよく知るようになる

ハザードマップは何が、どこに、どのような災害が発生しやすいのかについてわかりやすく説明されています。それに様々な情報を重ねることで、より理解が深まって応用力を醸成されるようなこともできます。

例えば、地形区分や土地利用、歴史的な遺跡などを重ねていくと、先人がどのように自分たちの住むところを判断して暮らしてきたのか、我々に伝えようとしたことがわかるようになります。今では見てもわからないことが見えてくることがあります。国土地理院の地理院地図や国土交通省が公開している「重ねるマップ」などで調べることもできます。一度はハザードマップのサイトを訪れてみてください。

【に】 逃げ遅れはなぜ起きる？ 避難は安全第一が最優先

津波では、避難警報が出た時点で高台を目指すこととなりますが、地震時の火災や洪水では、避難ルートの適切な判断が必要となります。関東大震災では、大量の荷物と混雑した道路が被害や犠牲を拡大したといわれています。今は、事情は異なりますが、自動車などによる避難が同様な混乱を招くのではないかとされています。加えて、避難情報の在り方、自分に都合よく考えた行動を避けて地域でどのような体制で避難するのかについて、情報を共有しながらどこに、どのようにを徹底しておく必要があります。